

- 手伝ってもらおう。
- 4 提供会員に、無理なお願いを引き受けてもらうことがある。
 - 5 提供会員に、プライベートなことを話す。
 - 6 提供会員から、地域行事や地域活動への誘いを受ける。
 - 7 提供会員から誘いを受け、地域行事や地域活動へ参加する。
 - 8 提供会員と、子どもや家族の将来について話す。
 - 9 提供会員を見習いたい(尊敬したい)と思う。
 - 10 提供会員と、児童福祉や教育問題の話をする。
 - 11 提供会員から、物事の見方・考え方を教えてもらう。
 - 12 提供会員から、儉約について習う。
 - 13 提供会員から、常識やしきたり、伝統文化の大切さを教えてもらう。
 - 14 提供会員と、自分の(おとなの)健康について話す。
 - 15 担当の提供会員がコロコロ変わる。
 - 16 提供会員本人以外の、提供会員の家族と関わる。
 - 17 提供会員に連絡すればよいと思うと、孤立感を感じずに安心する。
 - 18 提供会員から、子育てについて注意や指導を受ける。
 - 19 提供会員が、プライバシーに踏み込みすぎていると感じる。
 - 20 自分の考え方や行動で、提供会員と衝突する。
 - 21 自分の考え方や行動で、提供会員と衝突し和解する。
 - 22 ファミリー・サポート・センター事業主催の交流会等に参加する。

- 23 子どもにコミュニケーション能力が身につく。
- 24 子どもの性格が明るくなり、いきいきとなる。
- 25 子どもに、早寝早起きなどの生活習慣が身につく。
- 26 子どもに、挨拶などの礼儀作法が身につく。
- 27 子どもが提供会員に身内のようになっている。
- 28 子どもの精神面が安定した。
- 29 子どもの身体面が安定した(病気や怪我が減った)。

選択肢は、「4. よくある」「3. 時々ある」「2. あまりない」「1. 全くない」の4段階選択肢を設定し、最も該当するものの選択を求めた。

予備調査は、この29項目と、第2章において述べた親の成長・発達に関する49項目、さらに属性を回答する項目を用意し、予備調査紙を作成した。調査時期は、2007年12月～2008年1月である。調査対象は、佐賀県鳥栖市、唐津市のファミリー・サポート・センター利用者全員676名。153通を回収した。回収率は、22.6%である。

2-2. 選択肢の回答

記入者の属性は、母親144人、父親5人、祖母1人、無回答3人である。記入者の年齢区分は、10代～20代が14人、30代105人、40代22人、50代以上3人、無回答9人である。

調査結果は、回答に偏りが見られた。選択肢の「1. あまりない」に、回答数が極端に偏っている項目、類似した2項目を取捨し、16項目を抽出した。また、16項目を3つにカテゴリー化し、それぞれのグループに名前をつけた。回答者153人の中から、ファミリー・

サポート・センターの利用歴が1回以上ある会員の回答を統計から抜き出し44人の回答でデータを出した。このことで、データ数が減り、信憑性は低くなるものの、より、親の育ちとファミリー・サポート・センターにおける経験とを結び付けやすくなった。

グループ1:

提供会員からの学び 1、2、11、12、13

グループ2:

支えられている実感 3、4、5、16

グループ3:

子どもへの影響 23、24、25、26、27、28、29

また利用者が回答した自由記述のなかから、さらに項目を選定した。

この作業によって、以下の32項目を確定した。

- 1 提供会員の家族と関わった。
- 2 提供会員のおかげで、子どもに、早寝早起きなどの生活習慣が身についた。
- 3 事業を通じて、地域に知り合いが増えた。
- 4 提供会員のおかげで、子どもにコミュニケーション能力が身についた。
- 5 我が子にいろいろな人が関わって育ててくれていると実感した。
- 6 提供会員を、地域のボランティア(有償・無償)として尊敬している。
- 7 提供会員から、身内や親戚の様に気にかけてもらった。
- 8 提供会員から、食い初め等年中行事や、伝統文化の大切さを教えてもらった。
- 9 提供会員から、親としての姿を学んだ。
- 10 提供会員が、我が子(利用会員の子ども)のかわいさに気づかせてくれた。
- 11 提供会員のおかげで、子どもの病気への対処に関して不安が減った。
- 12 提供会員のおかげで、子どもの精神面が安定した。
- 13 提供会員に、無理なお願いを引き受けてもらった。
- 14 提供会員に、プライベートなことを聞かれ嫌な思いをした。
- 15 提供会員のおかげで、子どもの身体面が安定した(病気や怪我が減った)。
- 16 提供会員に、社会とのつながりの大切さを、理解してもらえた。
- 17 提供会員から、子育ては母親がすべきものと言われた。
- 18 提供会員から、効率的な家事や節約の方法について習った。
- 19 提供会員に、親としてだけではなく、社会の一員として認めてもらえた。
- 20 提供会員に、子どもが身内のようになつようになった。
- 21 提供会員のおかげで、子どもに、挨拶などの礼儀作法が身についた。
- 22 提供会員のおかげで、家族以外の人と関わる機会ができた。
- 23 提供会員に連絡すればよいと思うと、孤立感を感じなくなった。
- 24 提供会員から、仕事と育児の両立をサポートしてもらった。
- 25 提供会員に、育児の悩みを聞いてもらった。
- 26 提供会員から、物事の見方・考え方を教えてもらった。
- 27 提供会員に、子どもを預けることが不安になった。
- 28 提供会員に、家事を手伝ってもらった。
- 29 提供会員から、地域行事や地域活動への誘いを受けた。
- 30 提供会員に、育児の方法を習った。

31 提供会員やファミリー・サポート・センター事業は、いざと言うとき助けてくれる存在になった。

32 提供会員とは、お金と託児を介したつきあいだけだ。

3. 選択肢の回答(本調査)

予備調査において確定した調査項目によって、佐賀市および小城市においてさらに予備調査を行った上で、全国のファミリー・サポート・センター事業者へ調査を実施した。利用者 961 名から回答をえた。

選択肢の回答において、顕著な度数分布がみられたものは2種類に分けられる。一つは、「全くない」「あまりない」が7割以上を占める項目(質問項目2, 14, 17, 18, 27, 28, 29)。もう一つは、「よくある」「時々ある」が7割以上を占める項目である(質問項目5, 6, 7, 22)。

3-1. 「全くない」「あまりない」が7割以上を占める項目

質問項目 17「提供会員から、子育ては母親がすべきものと言われた。」は、「まったくない」84.39%(811人)、「あまりない」8.12%(78人)であり、合わせると92.51%(889人)と高い値になる。さらに質問項目 27「提供会員に、子どもを預けることが不安になった。」は、「まったくない」79.40%(763人)、「あまりない」12.38%(119人)であり、合わせると91.78%(882人)と高い値になる。また、質問項目 14「提供会員に、プライベートなことを聞かれ嫌な思いをした。」は、「まったくない」78.15%(751人)、「あまりない」13.53%(130人)であり、合わせると91.68%(881人)となり、この3項目の質問は、9割以上が当てはまらないと回答している。

その他にも、質問項目 28「提供会員に、家事を手伝ってもらった。」は、「まったくない」77.11%(741人)、「あまりない」9.99%(96人)であり、合わせると87.10%(837人)となる。質問項目 18「提供会員から、効率的な家事や節約の方法について習った。」は、「まったくない」57.23%(550人)、「あまりない」22.58%(217人)であり、合わせると79.81%(767人)となる。質問項目 29「提供会員から、地域行事や地域活動への誘いを受けた。」は、「まったくない」64.72%(622人)、「あまりない」14.88%(143人)であり、合わせると79.60%(765人)と高い値になる。質問項目 2「提供会員のおかげで、子どもに、早寝早起きなどの生活習慣が身についた。」は、「まったくない」44.54%(428人)、「あまりない」34.24%(329人)であり、合わせると78.78%(757人)となるなど、以上4項目は、9割まではいかないが、「全くない」「あまりない」への回答に集中していた。

3-2. 「よくある」「時々ある」が7割以上を占める項目

質問項目 6「提供会員を、地域のボランティア(有償・無償)として尊敬している。」は、「よくある」71.70%(689人)、「時々ある」18.83%(181人)であり、あわせると90.53%(870人)となり、9割以上の利用者を選択されている。

他に、質問項目 5「我が子にいろいろな人が関わって育ててくれていると実感した。」は、「よくある」61.60%(592人)、「時々ある」27.26%(262人)であり、あわせると88.86%(854人)。質問項目 7「提供会員から、身内や親戚の様に気にかけてもらった。」は、「よくある」49.84%(479人)、「時々ある」27.26%(262

人)であり、あわせると77.10%(741人)。質問項目22「提供会員のおかげで、家族以外の人と関わる機会ができた。」は、「よくある」39.75%(382人)、「時々ある」35.17%(338人)であり、あわせると74.92%(720人)となる。

4. 分析および考察

保育士と違い、保育の専門家ではない提供会員に、子どもを預けることに対して、「不安」だと思っている利用者が1割以下であることがわかった。また、家庭的保育は、個々の家庭のプライバシーの問題に触れる場合があり、提供会員も注意をしているようだが、利用者にとっては、「提供会員に、プライベートなことを聞かれ嫌な思いをした。」は、約9割が「ない」あるいは「あまりない」と感じていることがわかった。提供会員がプライバシーに踏み込んでいないのか、あるいは、保育をする側と利用する側が、家庭生活のことを親身に話せる間柄になっているのか、二

つのパターンが考えられる。

また、家事についての項目は、2項目とも8割前後が、「ない」あるいは「あまりない」と回答している。ただ、自由記述の中では、家事を手伝って頂いて感謝している利用者もいる。

一方、提供会員を、地域のボランティア(有償・無償)として尊敬している割合は、非常に高い。この点は、提供会員の利用者に対する関わりが、利用者の意識を変える要素になっていると考えられるので、さらに検証が必要な項目である。

また、「我が子にいろいろな人が関わって育ててくれていると実感した。」や、「提供会員から、身内や親戚の様に気にかけてもらった。」「提供会員のおかげで、家族以外の人と関わる機会ができた。」など、利用者である親は、地域の住民との関わりに感謝していることがわかる。

基礎資料

II-1提供会員の家族と関わった。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 220 | 22.89% |
| 2. あまりない | 218 | 22.68% |
| 3. 時々ある | 321 | 33.40% |
| 4. よくある | 162 | 16.86% |
| 無回答 | 40 | 4.16% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-2提供会員のおかげで、子どもに、早寝早起きなどの生活習慣が身についた。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 428 | 44.54% |
| 2. あまりない | 329 | 34.24% |
| 3. 時々ある | 117 | 12.17% |
| 4. よくある | 42 | 4.37% |
| 無回答 | 45 | 4.68% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-3事業を通じて、地域に知り合いが増えた。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 183 | 19.04% |
| 2. あまりない | 225 | 23.41% |
| 3. 時々ある | 303 | 31.53% |
| 4. よくある | 208 | 21.64% |
| 無回答 | 42 | 4.37% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-4提供会員のおかげで、子どもにコミュニケーション能力が身についた。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 125 | 13.01% |
| 2. あまりない | 189 | 19.67% |
| 3. 時々ある | 385 | 40.06% |
| 4. よくある | 215 | 22.37% |
| 無回答 | 47 | 4.89% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-5我が子にいろいろな人が関わって育ててくれていると実感した。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 28 | 2.91% |
| 2. あまりない | 37 | 3.85% |
| 3. 時々ある | 262 | 27.26% |
| 4. よくある | 592 | 61.60% |
| 無回答 | 42 | 4.37% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-6提供会員を、地域のボランティア（有償・無償）として尊敬している。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 19 | 1.98% |
| 2. あまりない | 28 | 2.91% |
| 3. 時々ある | 181 | 18.83% |
| 4. よくある | 689 | 71.70% |
| 無回答 | 44 | 4.58% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-7提供会員から、身内や親戚の様に気にかけてもらった。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 68 | 7.08% |
| 2. あまりない | 108 | 11.24% |
| 3. 時々ある | 262 | 27.26% |
| 4. よくある | 479 | 49.84% |
| 無回答 | 44 | 4.58% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-8提供会員から、食い初め等年中行事や、伝統文化の大切さを教えてもらった。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 382 | 39.75% |
| 2. あまりない | 289 | 30.07% |
| 3. 時々ある | 171 | 17.79% |
| 4. よくある | 72 | 7.49% |
| 無回答 | 47 | 4.89% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-9提供会員から、親としての姿を学んだ。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 144 | 14.98% |
| 2. あまりない | 207 | 21.54% |
| 3. 時々ある | 344 | 35.80% |
| 4. よくある | 218 | 22.68% |
| 無回答 | 48 | 4.99% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-10提供会員が、我が子（利用会員の子ども）のかわいさに気づかせてくれた。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 109 | 11.34% |
| 2. あまりない | 172 | 17.90% |
| 3. 時々ある | 376 | 39.13% |
| 4. よくある | 257 | 26.74% |
| 無回答 | 47 | 4.89% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-11提供会員のおかげで、子どもの病
気への対処に関して不安が減った。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 219 | 22.79% |
| 2. あまりない | 299 | 31.11% |
| 3. 時々ある | 249 | 25.91% |
| 4. よくある | 144 | 14.98% |
| 無回答 | 50 | 5.20% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-13提供会員に、無理なお願いを引き
受けてもらった。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 168 | 17.48% |
| 2. あまりない | 193 | 20.08% |
| 3. 時々ある | 300 | 31.22% |
| 4. よくある | 253 | 26.33% |
| 無回答 | 47 | 4.89% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-15提供会員のおかげで、子どもの身
体面が安定した（病気や怪我が減っ

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 297 | 30.91% |
| 2. あまりない | 379 | 39.44% |
| 3. 時々ある | 162 | 16.86% |
| 4. よくある | 71 | 7.39% |
| 無回答 | 52 | 5.41% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-17提供会員から、子育ては母親がす
べきものと言われた。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 811 | 84.39% |
| 2. あまりない | 78 | 8.12% |
| 3. 時々ある | 14 | 1.46% |
| 4. よくある | 12 | 1.25% |
| 無回答 | 46 | 4.79% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-12提供会員のおかげで、子どもの精
神面が安定した。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 144 | 14.98% |
| 2. あまりない | 235 | 24.45% |
| 3. 時々ある | 351 | 36.52% |
| 4. よくある | 183 | 19.04% |
| 無回答 | 48 | 4.99% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-14提供会員に、プライベートなこと
を聞かれ嫌な思いをした。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 751 | 78.15% |
| 2. あまりない | 130 | 13.53% |
| 3. 時々ある | 27 | 2.81% |
| 4. よくある | 7 | 0.73% |
| 無回答 | 46 | 4.79% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-16提供会員に、社会とのつながりの
大切さを、理解してもらえた。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 151 | 15.71% |
| 2. あまりない | 259 | 26.95% |
| 3. 時々ある | 313 | 32.57% |
| 4. よくある | 174 | 18.11% |
| 無回答 | 64 | 6.66% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-18提供会員から、効率的な家事や倭
約の方法について習った。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 550 | 57.23% |
| 2. あまりない | 217 | 22.58% |
| 3. 時々ある | 116 | 12.07% |
| 4. よくある | 29 | 3.02% |
| 無回答 | 49 | 5.10% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-19提供会員に、親としてだけでなく、社会の一員として認めてもらえた。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 243 | 25.29% |
| 2. あまりない | 263 | 27.37% |
| 3. 時々ある | 266 | 27.68% |
| 4. よくある | 130 | 13.53% |
| 無回答 | 59 | 6.14% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-20提供会員に、子どもが身内のようになつくようになった。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 751 | 78.15% |
| 2. あまりない | 130 | 13.53% |
| 3. 時々ある | 27 | 2.81% |
| 4. よくある | 7 | 0.73% |
| 無回答 | 46 | 4.79% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-21提供会員のおかげで、子どもに、挨拶などの礼儀作法が身についた。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 164 | 17.07% |
| 2. あまりない | 265 | 27.58% |
| 3. 時々ある | 326 | 33.92% |
| 4. よくある | 150 | 15.61% |
| 無回答 | 56 | 5.83% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-22提供会員のおかげで、家族以外の人と関わる機会ができた。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 80 | 8.32% |
| 2. あまりない | 111 | 11.55% |
| 3. 時々ある | 338 | 35.17% |
| 4. よくある | 382 | 39.75% |
| 無回答 | 50 | 5.20% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-23提供会員に連絡すればよいと思うと、孤立感を感じなくなった。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 124 | 12.90% |
| 2. あまりない | 198 | 20.60% |
| 3. 時々ある | 298 | 31.01% |
| 4. よくある | 293 | 30.49% |
| 無回答 | 48 | 4.99% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-24提供会員から、仕事と育児の両立をサポートしてもらった。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 191 | 19.88% |
| 2. あまりない | 115 | 11.97% |
| 3. 時々ある | 237 | 24.66% |
| 4. よくある | 364 | 37.88% |
| 無回答 | 54 | 5.62% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-25提供会員に、育児の悩みを聞いてもらった。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 194 | 20.17% |
| 2. あまりない | 237 | 24.64% |
| 3. 時々ある | 263 | 27.34% |
| 4. よくある | 217 | 22.56% |
| 無回答 | 51 | 5.30% |
| 合計 | 962 | 100.00% |

II-26提供会員から、物事の見方・考え方を教えてもらった。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 240 | 24.97% |
| 2. あまりない | 274 | 28.51% |
| 3. 時々ある | 245 | 25.49% |
| 4. よくある | 151 | 15.71% |
| 無回答 | 51 | 5.31% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-27提供会員に、子どもを預けることが不安になった。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 763 | 79.40% |
| 2. あまりない | 119 | 12.38% |
| 3. 時々ある | 19 | 1.98% |
| 4. よくある | 12 | 1.25% |
| 無回答 | 48 | 4.99% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-28提供会員に、家事を手伝ってもらった。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 741 | 77.11% |
| 2. あまりない | 96 | 9.99% |
| 3. 時々ある | 50 | 5.20% |
| 4. よくある | 23 | 2.39% |
| 無回答 | 51 | 5.31% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-29提供会員から、地域行事や地域活動への誘いを受けた。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 622 | 64.72% |
| 2. あまりない | 143 | 14.88% |
| 3. 時々ある | 110 | 11.45% |
| 4. よくある | 35 | 3.64% |
| 無回答 | 51 | 5.31% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-30提供会員に、育児の方法を習った。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 356 | 37.04% |
| 2. あまりない | 236 | 24.56% |
| 3. 時々ある | 244 | 25.39% |
| 4. よくある | 69 | 7.18% |
| 無回答 | 56 | 5.83% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-31提供会員やファミリー・サポート・センター事業は、いざと言うとき助けてくれる存在になった。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 32 | 3.33% |
| 2. あまりない | 35 | 3.64% |
| 3. 時々ある | 236 | 24.56% |
| 4. よくある | 608 | 63.27% |
| 無回答 | 50 | 5.20% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

II-32提供会員とは、お金と託児を介したつきあいだけだ。

| 選択肢 | 度数 | パーセント |
|----------|-----|---------|
| 1. 全くない | 471 | 49.01% |
| 2. あまりない | 259 | 26.95% |
| 3. 時々ある | 104 | 10.82% |
| 4. よくある | 64 | 6.66% |
| 無回答 | 63 | 6.56% |
| 合計 | 961 | 100.00% |

VI 単純集計<親への調査票>

4. 本事業に対する親の感想

<要旨>

本事業では、どのような支援がおこなわれているのだろうか。また、その中で、親はどのような経験をしているのだろうか。このことを検証するために、質問項目Ⅱに自由記述を設定した。回答は、586件あり、回答率61.0%であった。

結果は、本事業において支えられた経験があるという主旨の回答が70.87%（415件）、支えられるにはさらなる工夫が必要という回答が28.67%（168件）であった。

1. 問題状況

前述したように本事業は、年々設置箇所が増加し、また利用者も増加している。利用者の中には、会員登録しているだけで安心するという層もあれば、頻繁に利用する層もある。また、特殊な理由で利用しているケースもある。利用に関しては、各センターに規約があり、それに沿って展開されているのが原則である。

本事業では、どのような支援がおこなわれているのだろうか。また、その中で、親はどのような経験をしているのだろうか。

2. 選択肢の回答

ここでは、全国の利用者961名から調査紙を回収した。質問項目Ⅱの自由記述への回答586件あり、回答率61.0%であった。

そのうち事業によって支えられた経験があるという主旨の回答が70.82%（415件）、支えられるにはさらなる工夫が必要という回答（要望）が28.67%（168件）であった。

今年度は、詳細な分析までには至らなかった。詳細な分析は、次年度の報告とする。

Ⅶ おわりに

本研究は、まだ途中経過である。この報告書を元に、多くのご指導をいただき、完成させていきたい。

本研究は、ファミリー・サポート・センター事業初設置 15 年を経過したいま、本事業が、親の育児放棄を促しているのではなく、「親を育てる」意味での「子育て支援」として役割を果たしているのか、また果たしているとすれば、どのような要素が、子育て支援としての機能を成立させるのかについて検証している。つまり、「託児以外の『学習機能』が本事業にある」という仮説を立て検証しているのである。

まず、本事業を利用している親は、利用する中で、どのような心境の変化があるのか明らかにした。

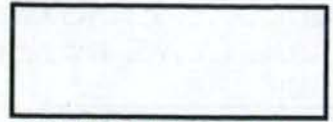
結論としては、親の成長・発達に関する項目の中で、特に「生き甲斐・存在感」の項目が突出して高い値がでている。「I」においても述べたように、利用者は「自分が大変なときに助けて頂いた。」「誰かに恩返しをしたい」という気持ちになっている。利用者の親としての大変さを支え、親自身の存在感まで支えている本事業の役割があきらかになったといえよう。そして、親の発達を促しているのは、<子どもとの関わり方を学ぶ経験>、<家事や育児の方法を学ぶ経験>、<地域とのつながりを学ぶ経験>であることが明らかとなった。この報告書では、細かいまとめができなかったが、親の自由記述には、「我が子にいろいろな人が関わって育ててくれていると実感した。」や、「提供会員から、身内や親戚の様に気にかけてもらった。」「提供会員のおかげで、家族以外の人と関わる機会ができた。」などが述べられている。

保育者から見た親の発達についても、同様のことが言えた。まず、保育者が、親との関係において配慮している点は、次の3点である。①子どもの様子をできるだけ細かく親に伝えること。②コミュニケーションを大切にすること。③他人に大事な子どもを預けるから、安心できる雰囲気を作ること。一般的に言われる相談や助言については、「相談されれば、助言するが、積極的なアドバイスは控える」という回答が非常に目立った。そして「積極的に苦言を呈す」というような回答は、1%にも満たなかった。親の発達の要因は、保育者からの指導というよりも、一緒に子育てをする相手との直接的な関係から生み出されていると分析できる。

さらに注目すべきは、保育者が感じる親の変化も、この3つのキーワードと同じであったことである。もちろん、保育者自身の回答だから当たり前かもしれない。しかし、ここから言えることは、実際に親にかかわっている保育者は、親の肯定的変化(=親の育ち)を、親の否定的変化よりも、確実に実感しているという点である。

単に、福祉事業の利用しやすさが、子育ての外部委託化、親の育児力の衰退・低下を助長するというよりも、保育する側である地域住民と、親の間で、親にとって有効な学習機会を提供できるのかどうかを要点だということがわかった。

次年度は、本調査に対してさらに詳細な分析を行うとともに、各センター事務局およびコーディネーターを対象とした調査を実施する予定である。今後ともご指導いただきたい。



ここには記入しないで下さい。

地域の子育て支援事業における
親に対する働きかけに関する全国調査(保育する方・預かる方用)
—ファミリー・サポート・センター事業を対象として—

(平成19年度 厚生労働科学研究費補助金 政策科学推進研究事業)

主任研究者：
佐賀女子短期大学 東内瑠里子

記入上のお願い

1. この調査は、厚生労働省の科学研究費によるものです。
この調査で得た情報は、研究目的以外の用途にて使用することは一切ありません。
また、この調査によって、個人を特定することはありません。
2. 回答して頂く方のお名前を記入される必要はありません。
3. 記入がお済みになりましたら、同封の返信用封筒に入れ、封をしてポストに入れてください。
この調査票が届いてから、おおよそ7日くらいでご返送下さい。
4. この調査についてのお問い合わせは、下記をお願いします。できるだけメールをご利用下さい。

佐賀女子短期大学 こども学科 乳幼児保育専攻 東内瑠里子(とうない・るりこ)
〒840-8550 佐賀市本庄町大字本庄1313番地
電話・FAX (0952) 23-5145 (土・日、祭日休校)
E-mail ruriko@asahigakuen.ac.jp
緊急連絡先：(090) 6423-4380 (ソフトバンク)
ruri0411@q.vodafone.ne.jp (年中無休)

■用語の説明■

提供会員とは、子どもを保育する方であり、「預かる方」のことです。
利用会員とは、子どもを「預ける方」のことです。

ご協力のほど、よろしく申し上げます。

I次の項目について、ご自身の体験をご記入下さい。なければ、無回答で構いません。

1. 提供会員をしていて、親や子どもとの関係等において、気をつけていることをお書き下さい。

①親との関係

例) ただ子どもを預かるだけではなく、お母さんが、元気がないときには、声をかけるようにしている。

②子どもとの関係

例) 預かることによって、子どもの生活習慣が乱れないように、心がけている。

③その他の関係

例) 家族ぐるみのつきあいができるように、自分の家族にも協力を求めている。
また、依頼者の家族とも知り合う機会をつくっている。

2. 子どもを預かるようになって、親の変化(①良い面、②悪い面)に気づいたことがありましたか。

親の変化について、実際の事例をお書き下さい。※未記入の方は、「4」へお進み下さい。

①良い面の親の変化

例) 人間関係が広がり、子育ての方法について、より理解を深めるようになった。

②悪い面の親の変化

例) お金を払っているからという理由で、一方的に要求を押しつけてくるようになった。

3. 「2」の「親の変化」の前後において、あなたがどのような関わりをしたことが、親の変化につながったと考えられますか。実際の事例をお書き下さい。

①「良い面の親の変化」に対するあなたの関わり

例) できるだけコミュニケーションをとるようにし、自分の子育て経験を話すようにした。

②「悪い面の親の変化」に対するあなたの関わり

例) 親も大変だな、と思い、どんな要求も引き受けるようにした。

4. その他、ファミリー・サポート・センター事業について、感想などご自由にお書き下さい。

Ⅲ. あなたのことについて、当てはまる項目に○を付け、記入すべき項目にはご記入ください。

- 1 家族におけるあなたの属性をお答え下さい。……… (①母 ・②父 ・③祖母 ・④祖父 ・⑤その他)
- 2 あなたの年齢についてお答え下さい。……… ()才
- 3 お子様の人数をお答え下さい。……… ()人
- 4 お子様の年齢をお答え下さい。…第1子()才、第2子()才、第3子()才、第4子()才
その他()
- 5 家族の人数についてお答え下さい。………()人
- 6 あなたの就業の有無についてお答え下さい。……(①有 ・②無)<「無」の方は、問11にお進み下さい。>
- 7 あなたの職種について教えてください。(① 会社員・公務員、②自営業、③学生、④その他< >)
- 8 あなたの就労形態についてお答え下さい。

- (①正社員<正規雇用>、 ②契約社員・臨時職員<非正規雇用>、 ③パート・アルバイト、
④自営業、⑤在宅ワーク、⑥その他())

9 一週間に何日就業していますか。……(一週間に 日)

10 一日の仕事時間をお答え下さい。

- (①4時間以下、②5～8時間以内、 ③9時間以上～11時間以内、④12時間以上(時間))

11 ファミリー・サポート・センター事業の利用歴(提供も含めて)をお答え下さい。

- (①～半年未満、②半年以上～1年未満、③1年以上～2年未満、④2年以上～3年未満、⑤3年以上～4年未満、
⑥4年以上～5年未満、⑦5年以上～6年未満、⑧6年以上～7年未満、⑨7年以上～)

12 ファミリー・サポート・センター事業のおおよその月間提供頻度をお答え下さい。……おおよそ月()回

13 あなたは、両方会員(利用会員と提供会員)ですか。………(①はい ・ ②いいえ)

14 同居、あるいは日常通える距離に親戚や祖父母は住んでいますか。………(①はい ・②いいえ)

15 現在の街に住んで、何年経ちましたか。………おおよそ()年

16 ファミリー・サポート・センター事業において、あなたが提供している援助内容に「○」をおつけ下さい。(複数回答可)

- ① 自宅から保育所等への送迎。
- ② 保育所・幼稚園の開始前や終了後の子どもを預ける。
- ③ 学校の放課後や学童保育終了後、子どもを預ける。
- ④ 学校の夏休みなどに子どもを預ける。
- ⑤ 保護者等の病気や急用等の場合に子どもを預ける。
- ⑥ 冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際、子どもを預ける。
- ⑦ 買い物等外出の際、子どもを預ける。
- ⑧ その他()

以上で、アンケート終了です。ご協力ありがとうございました。

海外調査



イギリス・ロンドン市

2009年2月

多様な地域課題とボランティアによる子育て支援

東内 瑠里子 (佐賀女子短期大学)

1. 本研究のアプローチ

1) 準専門家である地域ボランティアによる子育て支援

国内研究において述べたように、各家庭の個別ニーズに対応するファミリー・サポート・センターの取組は、親を育てる機能がある。

「育てる」というのは、別の視点から見ると、虐待や育児不安が起こってから対応する「対応型」ではなく、事前に予防する「予防型」と捉える事もできる。またこれまでの日本における保育や子育て支援サービスの多くが、「施設型」および「集団型」であったものと違い、ファミリー・サポート・センターの取組は、「家庭型」および「個別型」である。西郷氏は、これら後者のタイプ（筆者によれば「予防」および「ホーム・ビジティング」）が、こども家庭福祉領域さらに社会福祉領域における世界のトレンドだと指摘する¹。「これまでは児童虐待の際の危機介入に力を注いできたが、現在では問題の発生の予防や、早期介入・深刻化防止の方法に児童施策の重点が移動してきている」²という。そして著書『ホーム・ビジティングの挑戦』（2006年）において、準専門家であるボランティアによる支援活動の全体状況、およびイギリスの子育て支援政策とホーム・ヴィジティング、さらにイギリスを発祥の地とするホーム・スタート（NPO）の取組について言及している³。また筆者は、その理論展開だけではなく日本においてモデルの実践（ホーム・スタート・ジャパン）を立ち上げ展開している。ホーム・スタートの取組は、ファミリー・サポート・センターの取組と同様、家庭に専門職以外が入っていくことの漠然とした不安を乗り越え、現在、世界的に展開され、その効果も実証されている。

2) イギリスの子育て支援政策

先述したとおり、ホーム・スタートの概要およびイギリスの子育て支援政策（特にシュアスタート）については、西郷氏の著書『ホーム・ビジティングの挑戦』（2006年）に詳しい。イギリスでは、1997年の労働党政権以来、政策的に労働者の家庭支援が重視され、就学前教育も充実された。1999年からは、貧困地域の家庭・児童の環境向上を中心に生活や幼児教育を支援する「シュアスタート」（Sure Start）プログラムが開始され、その施設として、「就学前教育センター」（Early Excellence Centre）や「近隣保育施設」（Neighbourhood Nursery）などが導入された。2003年からは「チルドレンセンター」として施設の建設、専門家の設置がなされている。⁴イギリスでは、現在、「未来への投資」として、子育て支援にかなりの予算が投入されている。たとえば、今回の調査で入手した資料によると、ロンドン市ランベス地区（人口約280,000人、面積10.5 square miles）には、チルドレンセンターが28施設も建設されている。政府は2010年までに、イギリスの全ての家族が、家から歩いてベビーカーを押していける距離でサービスを受けられるように、チルドレンセンタ

一を設置している。さらに地域の貧困度に応じて、その施設に、保育所や助産婦や言語聴覚士、栄養士、アウトリーチワーカーや、他の医療関係の専門家を施設に所属させている。多くのチルドレンセンターは、小学校に併設された。実際には、かなり多くの保育所が増えたことになる。見学したランベス地域には、インドやソマリア等、子どもを多く生む人種の移住者が多く、高齢者は少ないため、保育所の需要がある。次頁の地図を見ると、チルドレンセンター間の距離が、歩いて5分というケースもあることがわかる。ランベスの見学させていただいたチルドレンセンターは、非常に熱心で好評だった。しかしすべてのチルドレンセンターがそうではないようだ。現場からは様々な声を聞いた。チルドレンセンターの政策は、3年間限定の政策であり、3年後どうなるかわからない。また、「シェアスタートは、活動に対して委託という形で補助金がおりましたが、チルドレンセンターは施設建設中心に費用を投じているため、多様な活動への補助金が難しくなった」という。また昨今の不況のためか、地域によっては、あらゆるサービスを受けられる施設というよりも、単なる大きな保育施設にしかになっていない個所もある。そうすると、サービスを受けるために親は資金が必要なため、貧困地域にいる多くの親のニーズに応えられないという指摘もあった。

チルドレンセンターの当初の構想は、誰でもが行ける施設というコンセプトだったが、そうはなっておらず、逆にチルドレンセンターに行くことを怖がっている親もいた。利用者は、中流の親が中心であるという指摘があった。この意味で、シェアスタートから、チルドレンセンターになって、貧困地域への支援が難しくなっていることがわかった。本当に深刻な問題は、かかわっても、活動の効果がなかなか見えてこない。そうなる前の、「初期」の予防が非常に重要であるという現場の声が多かった。

<ランベスのチルドレンセンター>

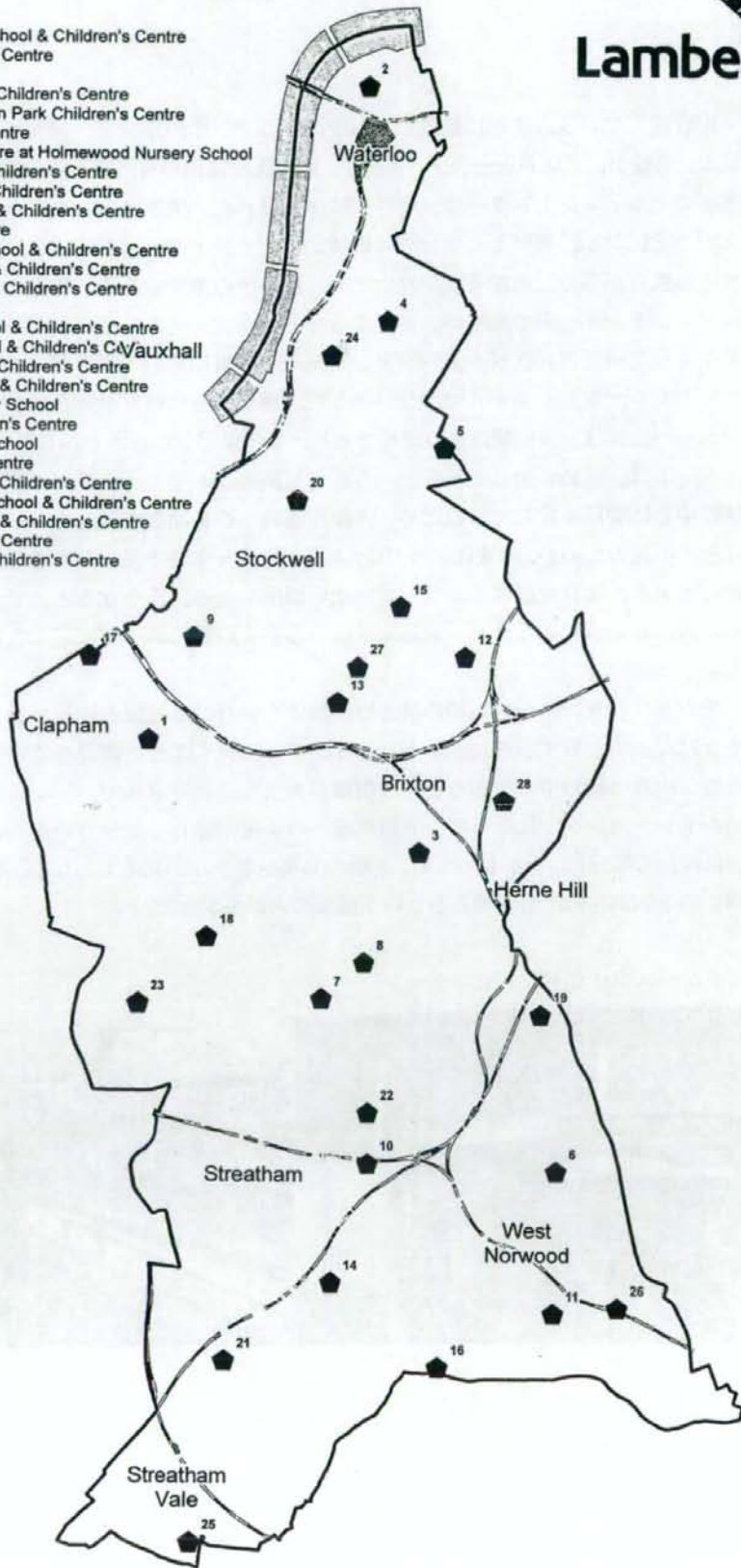


CHILDREN'S CENTRES

1. Clapham Manor Primary School & Children's Centre
2. Coin Street Neighbourhood Centre
3. Effra Early Years Centre
4. Ethelred Nursery School & Children's Centre
5. Henry Fawcett & Kennington Park Children's Centre
6. Barston Road Children's Centre
7. Tree House Children's Centre at Holmwood Nursery School
8. Jubilee Primary School & Children's Centre
9. Larkhall Primary School & Children's Centre
10. Hitherfield Primary School & Children's Centre
11. Little Starz Children's Centre
12. Loughborough Primary School & Children's Centre
13. Stockwell Primary School & Children's Centre
14. Sunnyhill Primary School & Children's Centre
15. Brixton Children's Centre
16. Crown Lane Primary School & Children's Centre
17. Heathbrook Primary School & Children's Centre
18. Maytree Nursery School & Children's Centre
19. Rosendale Primary School & Children's Centre
20. St Stephens C of E Primary School
21. 388 Streatham Hub Children's Centre
22. Streatham Wells Primary School
23. The Weir Link Children's Centre
24. Vauxhall Primary School & Children's Centre
25. Woodmansterne Primary School & Children's Centre
26. Kingswood Primary School & Children's Centre
27. Stockwell Park Early Years Centre
28. Jessop Primary School & Children's Centre



Lambeth



2. 本研究の課題

1) 準専門家による支援の可能性と課題

ファミリー・サポート・センターとホーム・スタートには、重要な相違点が2つある。

一つは、ファミリー・サポート・センター事業ではできない部分へのアプローチが、ホーム・スタートならばできる点である。無償だからこそ、貧困家庭が利用でき、また専門機関による「照会」を中心に展開しているからこそ、自分からは手助けを求めようとしない、深刻な家族とつながることができる点である。

二つ目に、専従職員以外、地域の無償ボランティアが担っているという点である。有償のコーディネーター以外、無償ボランティアが関わっているので、予算規模にかかわらずサービスの拡充ができる。ただ、日本では、厚生労働省も指摘するように、無償ボランティアの継続性と責任の所在において課題や限界性が指摘されて久しい。さらにボランティア本人が「各家庭に入っていくという重責に堪えられるのか」と併せて、各ボランティアを支え、責任を放棄せず継続的に活動を展開するボランティア団体の運営のための財源の問題は、これまで日本のボランティア論が抱えてきた課題である。

このような可能性への着目と課題意識のもと、本研究では、ホーム・スタート発祥の地であるイギリスにおいて、これらがどのように捉えられ、克服されているのか明らかにし、日本の子育て支援を担うボランティアの可能性について言及したい。イギリスは、子育て支援サービス選択肢の多さや、すべての医療費無料など、日本とは多くの違いがあるが、参考になると考える。

2) 貧困および格差社会と子育て支援

今日の世界的不況に伴い、日本においても家庭さらには子どもの貧困が深刻化し、また親の就労状況、就労時間の多様化がすすみ、多くの支援が必要となっている。しかし、支援のために必要な財源も、自治体にはほとんどないのが現状である。このような状況において、地域ボランティアは頼もしい存在であるのだが、各地域の状況によって、ボランティア団体も様々な影響を受けている。この先行事例として、日本以上に格差が進行しているイギリスの事例は、今後の日本の方向性を考えるための参考になる。現在のイギリスは、貧富の格差が40年以上前の水準になりつつあり、さらに貧困層も富裕層もそれぞれまとまって居住する傾向を強めているといわれている。また昨年からのクレジット・クラッシュ（不況、ポンドの急落）は、より格差を進行させている。各地域の子育ての状況および支援の状況は、どのように違うのだろうか。

3. 調査方法・内容

1) 調査方法

ロンドン市の貧富格差のある5地域（カムデン、ランベス、イーリング、リッチモンド、